

患者を生きる

4495

膀胱がん、27年目の選択④

長年、膀胱^{ぼうこう}がんと闘ってきたコンサルタントの小出宗昭さん(63)は、2022年12月、静岡県立総合病院で、膀胱を全摘し、尿の出口を変える手術を受けた。

膀胱を切除し、小腸の末端部分にある回腸を20^{センチ}ほど切って尿管をつなぐ。その端をおへその右下あたりから体外に引き出し、新しい尿の出口(ストーマ)をつくった。約8時間の手術だった。

手術後の装具交換の時、自分のストーマを初めて見た。事前に模様を見せてもらっていたから、心の準備はできていた。直径3^{センチ}ほどの、こぢんまりとしたストーマ。「僕のはこんな感じか」

術後の経過は順調だった。一般病棟にうつってから、ストーマの

ストーマ違和感なく始動



小出さんが使っているストーマ装具。
肌にぴったりと密着する＝静岡市

扱い方、装具の交換の仕方などを、看護師の指導のもとで何度も練習した。交換は、3日ほどで体得できた。

入院期間は約2週間。退院の

日。カジュアルスーツを着ると、ストーマは、スラックスにきれいにおさまった。装具のごわつきもない。「意外に、わからないじゃん」とホッとした。

翌週から、事務所に出勤してオンラインの仕事再開した。スーツを着て、ワイシャツを着て、ネクタイをしめると、「小出宗昭」のスイッチがはいった。

入院中に落ちてしまった体力を戻すために、駅から事務所まで歩いたり、家族を誘ってスーパーまで歩いたりして、体を動かすようにして年を越した。

そして、1月からは仕事をフル始動した。九州から北海道まで、さっそく全国を飛び回って経営者たちの話に耳を傾けている。

尿意は感じないので、1〜2時間おきにトイレに行き、パウチにたまった尿を便器に流すのが、新たな日課だ。万が一の「もれ」に備えて、交換用の装具や着替えを多めに持ち歩いている。

装具は週に2回交換する。皮膚のトラブルはいまのところない。夜間にトイレに起きることがなくなり、夜はぐっすり眠れるようになった。

2月、香川県であった講演会では、いつもと変わらない張りのあは、いつもと変わらない張りのあは、人生で20回以上も手術を受けてきた。「どう立ち向かうか、試されてるのかな」と思うこともある。こんな人生、ほかにはないから。

「待っている人がいる限り、走り続けます」
(鈴木彩子)

■ご意見・体験は、氏名と連絡先を明記のうえ、
iryo-k@asahi.comへ
お寄せください。



朝日新聞アピタル

「患者を生きる」は、医療サイト「朝日新聞アピタル」(<http://www.asahi.com/apital/>)でも、ご覧になれます。